

JF 日本語教育スタンダードを活用した生活者向け ダイアログ教材の開発と活用

— 「Learn Japanese from the News」の関連コンテンツとして—

菊岡由夏・山本実佳・須摩亜由子・西島阿弥子・山岸愛美・湯本かほり

1. はじめに

本稿では、JF 日本語教育スタンダード（以下、JF スタンダード⁽¹⁾）を活用した生活者向けダイアログ教材（以下、ダイアログ教材）の開発に関する報告とその活用方法の提案を行う。

本ダイアログ教材は、NHK ワールド JAPAN（以下、NHK ワールド）で制作、放送されている日本語学習番組「Learn Japanese from the News（以下、ランジャパ）⁽²⁾」に関連して展開されている web 上の日本語学習コンテンツの一つである。ランジャパは、NHK の News Web Easy で放送されたやさしい日本語のニュースをもとに日本語と日本の生活情報を提供する番組で、テレビ、ラジオで放送されている。番組の公開に付随して随時関連コンテンツが更新されており、2022年度に、従来から公開されているニュース素材に、番組で取り上げたニュースの内容とゆるやかに関連させたダイアログとダイアログの理解を確認するクイズで構成されたダイアログ教材が加わった。教材は、番組を通して学んだ社会文化的知識や言語知識を、日常生活のコミュニケーションに活かすための学習コンテンツとなっている。筆者らは2022年4月から2023年3月公開のニュースコンテンツに付随するダイアログ教材の開発を担当した⁽³⁾。

本教材は、JF スタンダードの Can-do を活用して開発しており、コミュニケーション課題の達成を目指した教室活動デザインがしやすい作りになっているところに特徴がある。次章から開発の背景、教材の概要について述べ、本教材の教室活動での活用について提案する。

2. 開発の背景

近年、日本では中小企業をはじめとする人手不足の深刻化、人口減少に伴う労働力人口の減少が顕著な課題となっており、その解決策の一つとして、外国人材の受け入れ促進が進んでいる⁽⁴⁾。それに伴い、日本で生活、就労をする外国人に向けた日本語教育推進が課題となっている。国際交流基金（以下、JF）では、「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策⁽⁵⁾」に則り、2019年度から特定技能外国人材向けの日本語事業に取り組んできた。教材開発としては、

生活者向けの日本語コースブック『いろどり 生活の日本語』(入門、初級1、初級2) (藤長ほか 2022)、ストラテジーで日本語を学ぶ日本語学習番組「ひきだすにほんご Activate Your Japanese!」(菊岡ほか 2022)⁶⁾がある。これらはいずれも JF スタンドの考え方に基づいて開発されている。

ダイアログ教材の開発は、関連コンテンツ制作を担当する NHK エデュケーショナル (以下、NED) からの受託業務であった。筆者らは、ランジャパが、ニュースという日本社会を学ぶために有用なリソースをもとにしているという点で、日本での生活や就労をする学習者に役立つコンテンツであると考えた。そのため、ダイアログ教材の開発においても、JF が取り組む特定技能外国人材向け日本語教育事業の流れに合わせ、主たるターゲットを生活者とし、生活や就労に役立つダイアログを提供することを方針とした。また、JF が開発した他教材との関連を考慮し、本教材も JF スタンドを参照して開発することとした。

3. JF 日本語教育スタンダード

JF スタンドは、ヨーロッパの言語教育の基盤である Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment (以下、CEFR) の考え方をもとにして2010年に国際交流基金日本語国際センターが開発した言語教育環境デザインのための枠組みや目安を提供するもので (国際交流基金 2017: 5)、その基本理念である「相互理解のための日本語」に基づく日本語教育として、コミュニケーションの課題を遂行する能力の育成を掲げている。CEFR と共通のレベル基準 (A1~C2) や CEFR の言語能力記述文をもとに開発した日本語によるコミュニケーション言語活動を例示した Can-do などが整備されている。CEFR を基盤として開発されていることから、2021年に文化庁が文化審議会国語分科会での審議を経て公開した「日本語教育の参照枠 (報告) (以下、参照枠)⁷⁾」ともレベル基準等の点で共通しており、今後の日本語教育において有用なツールと言える。本ダイアログ教材は、JF スタンドを参照し、JF スタンドおよび CEFR の Can-do に基づいてダイアログを制作することで JF スタンドひいては参照枠に基づいた日本語教育が行いやすい教材として仕上がっている。

4. 教材の概要

4.1 コンテンツの構成とねらい

ランジャパは、NHK ワールドで放送され、同 web サイトでも視聴可能な番組本体と web サイトのみで公開される関連コンテンツによって構成されている (図1)。関連コンテンツは、ランジャパ番組本体で学んだことに関連し、さらに学習を進めるためのコンテンツである。「番組で取り上げたやさしい日本語によるニュース」を中心に、ニュースで使われた語彙や表現を

取り上げて学ぶ「Words & Expressions」、ニュースの内容にゆるやかに関連した会話を提示する「Small talk (Dialogue) (以下、ダイアログ)」、ダイアログの内容やそこで使用された文型・表現を確認する「Small talk (Drill) (以下、クイズ)」の3つで構成されている。番組の動画を公開している web 上の本体ページから「Learn More」と指示されたアイコンをクリックすると、関連コンテンツへ進むことができるようになっている。各コンテンツは公開日時が新しいものから順に並んでいる。2022年4月4日から2023年3月27日に放送されたニュース48回分に付随する関連コンテンツのうちの「ダイアログ」と「クイズ」が本稿で述べるダイアログ教材である。

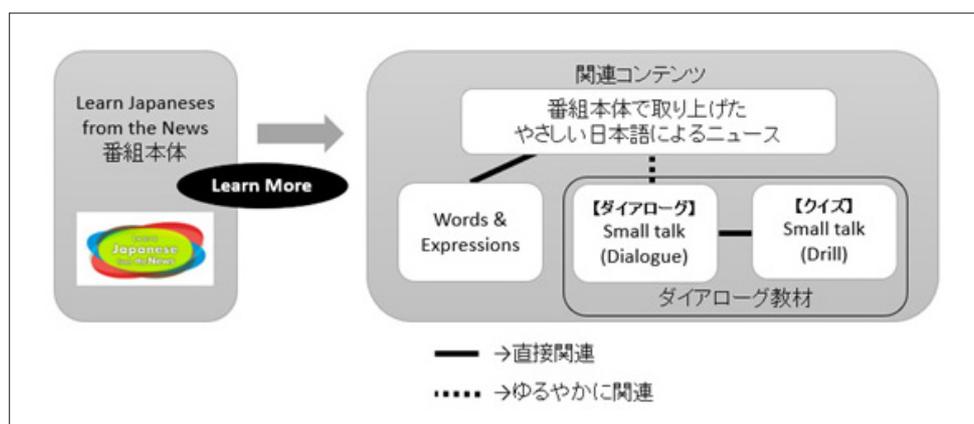


図1 ランジャパの構成

ダイアログ教材については、背景で述べたような昨今の日本語教育事情に鑑み、日本で生活や仕事をする、または、希望する人々を対象に、「ニュースで学んだ日本語や日本社会に関する知識を、実生活におけるコミュニケーションに活かし、日本語によるコミュニケーション能力の向上につなげる」ことをねらいとした。また、日本語のレベルとしては、番組本体で取り上げるニュースのレベルと、ニュースで学んだ知識を実生活のコミュニケーションに活かすという本コンテンツのねらいに基づき、JF スタンダードの A2 から B1 レベルの課題達成を目標とすることにした。A2 から B1 レベルという設定は、第一として、JF で制作した『いもどり 生活の日本語』(A1～A2 レベル) に引き続いての活用が可能となること、第二として、ニュースおよびニュースで提供される話題が、日常生活の様々な場面(仕事、学校、娯楽)で出合う身近な話題や学習者が関心を持つ話題の提供につながるものであり、それらが B1 レベルを目指す日本語教育に有効であることによる。

4.2 登場人物と場面の設定

ダイアログの登場人物設定は、日本での生活や就労をする、または、希望する学習者にとつ

て、ロールモデルとして自らの境遇を重ねたり、共感したりできる人物像になるよう配慮した。ダイアログ教材の登場人物は以下表1のとおりである。

表1 登場人物一覧

ロン (Long)	…最近日本の会社で働き始めた。ソフィアの後輩。アン、一恵と同じマンションの住人。
ソフィア (Sophia)	…ロンと同じ会社で働く先輩。子育てをしながら日本で5年間働いている。
田中健司	…ロンの上司。中学生と、小学生の2人の子どもがいる。
美咲	…ロンと同じ会社で働く同僚。
アン (An)	…日本で働く夫に帯同して来日。小学生の娘がいる。
鈴木一恵	…ロン、アンと同じマンションの住人。現在は一人暮らし。

NHK 「Learn Japanese from the News」 番組サイトより一部改変⁸⁾

主人公ロンは、日本企業で働き始めて1年弱の外国人とし、彼を取り巻く会社や地域の人々とのやりとりを描いた。場面は主に、仕事の合間のちょっとした会話や休憩時間の雑談、近所の人との交流場面などとした。全48回のダイアログは連続した物語ではないが、ロンの成長や周りの人との人間関係の変化が読み取れるようデザインされている。

4.3 開発手順

ダイアログ教材はすでに述べたように、先行して公開されるニュースに紐づいて開発されている。そのため、事前にシラバスを決定するのではなく、NEDを通して定期的に提供されるニュースコンテンツ (図2①) をもとに、それ以前のコンテンツとのバランスを取りながらシラバスを構築していく方法を取った。

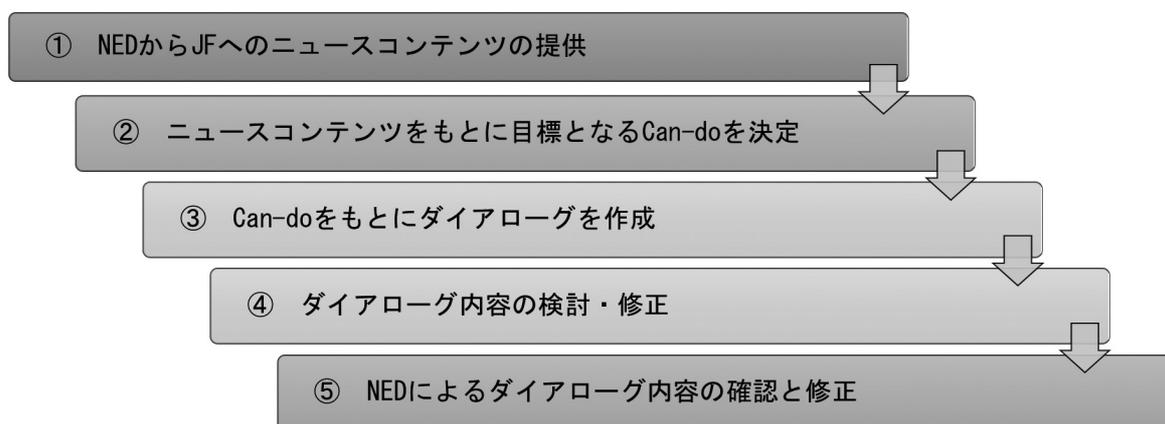


図2 ダイアログ教材の開発手順

4.4 シラバス

本コンテンツでは、『まるごと 日本のことばと文化』の開発（来嶋ほか 2012）を参考に JF スタンダードの Can-do を軸としてシラバスを組み立てた。Can-do は、「みんなの Can-do サイト^⑨」を使って選定した。ダイアログを通して、先行するニュースで取り上げられた日本語や内容を実際の社会でのコミュニケーションへと展開するというコンテンツの特性上、Can-do の選定の際には、NED から提供されたニュース（図 2 ①）を確認し、そこで取り上げられた出来事やテーマ、情報、語彙などを実社会で活かすことのできる Can-do をあてがった。適合する Can-do がない場合は、JF Can-do をベースに文脈を書き換える MY Can-do（国際交流基金 2017）を作成した（図 2 ②）。また、2020年に発表された CEFR の Companion volume（Council of Europe, 2020）の Can-do を一部取り入れた。なお、先にも述べたように Can-do は取り上げるニュースが確定しなければ決めることができないため、シラバスは随時更新する方法を取った。そのため Can-do の決定に際しては、カテゴリーの極端な偏りを避けること、A2 レベルの Can-do は全48回の 1 / 6 程度とし、前半に設定するなどの点に配慮した。選択した Can-do のカテゴリーと数の一覧を以下に示す。

表 2 Can-do のカテゴリーと Can-do 数一覧

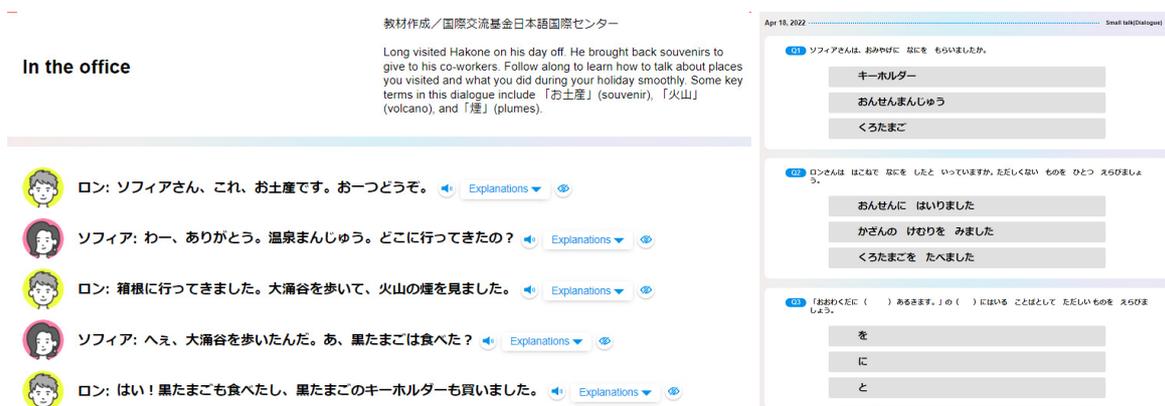
活動	カテゴリー	A 2	B 1
やりとり	社交的なやりとりをする	2	3
	インフォーマルな場面でやりとりをする	1	8
	フォーマルな場面で議論する	-	1
	共同作業中にやりとりをする	1	4
	店や公共機関でやりとりをする	1	6
	情報交換する	1	6
	インタビューする／受ける	1	1
	情報通信の使用	0	1
産出	経験や物語を語る	1	6
	論述する	0	2
	講演やプレゼンテーションをする	0	1
仲介	特定情報の引継ぎ	0	1
【合計】		8	40

4.5 ニュースとダイアログ教材の関連

ダイアログ教材は、ダイアログを通して、先行するニュースで取り上げられた出来事やテーマ、情報、語彙などを実際の社会でのコミュニケーションへと展開することをねらって開発されている。例えば、2022年4月16日公開のニュースでは、「箱根で噴火の影響で停止されていた観光ルートが再開されて、観光客が戻った」という内容が取り上げられていた⁽¹⁰⁾ため、ダイアログは「職場で箱根旅行のお土産を渡す」場面とし、「お土産を渡しながら、休み中に行った場所や出来事などについて、短い簡単な言葉で友人に話ることができる⁽¹¹⁾」ことを目標とした(表3、図3)。また、先に「ゆるやかに関連する」と記したように、ダイアログ教材は、実社会でのコミュニケーションへの展開を優先し、必ずしもニュースの内容と直線的なつながりを持ったものばかりではない。そのため、一見関連が見えにくいものもある。例えば、「昆虫の体に取り付けて昆虫の動きを遠隔操作する太陽電池や無線の機能を活用した機器が開発された」という内容のニュースでは、「新たな機器の開発」という点や「太陽電池」という語彙に着目し、「(相手の知らない)自分の興味のある機器(キャンプ用ポータブル太陽電池)について説明する」ことを目標としたダイアログを作成した(図2③)。作成したダイアログは開発担当者間で相互に検討、修正をし(図2④)、その後、NEDが放送上の観点から確認、修正を行った(図2⑤)。

表3 ニュースとダイアログ教材の関連の例

ニュースの概要	ダイアログの場面	ダイアログの目標
箱根で噴火の影響で停止されていた観光ルートが再開されて、観光客が戻った。	職場で箱根旅行のお土産を渡す。	お土産を渡しながら、休み中に行った場所や出来事などについて、短い簡単な言葉で友人に話ることができる。 (JF013_経験や物語を語る_A2)
昆虫の体に取り付けて昆虫の動きを遠隔操作する太陽電池や無線の機能を活用した機器が開発された。	買い物中に、(相手の知らない)自分の興味のある機器について説明する。	最新の便利グッズなど、自分の興味のある機器について、機能や生活にどのように役立つかなどを友人に説明することができる。 (MY Can-do : 元 JF035_論述する_B1)



NHK 「Learn Japanese from the News」番組サイトより

図3 ダイアログ教材のコンテンツ例

4.6 キーフレーズ解説とダイアログに関する選択式クイズ

ダイアログにはそれぞれ1つもしくは2つのキーフレーズを入れた。このキーフレーズはCan-do達成のために必要な表現や語彙を含むものとし、解説を加えた。例えば、「洋服店などで店員に、購入したばかりの商品の不具合などを簡単に説明し、返品や取り換えを要求することができる」というCan-doでダイアログを作成した場合は、説明すること、および取り換えを要求することに必要な表現や語彙がキーワードとなるようにした。ここでは、不具合の説明に役立つであろう表現として「チャックが壊れていたみたいで、閉まらなかったんです」を取り上げ、結果に着目し、動作をした人には責任がないことを表す自動詞の使い方を示した。また、「新しいものに交換していただけますか」を取り上げて、交換の依頼を丁寧に表す「Vいただける」の説明を加えた。

それぞれのダイアログには、ダイアログに関する選択式のクイズを3問作成した。それぞれ、全体の内容を確認するもの、キーフレーズの理解を確認するもの、キーフレーズの文法・文型を確認するものとした。

5. ダイアログ教材の活用提案

本教材を利用しwebサイトで自習する場合は、冒頭の状況設定とそれに付随して示されている語彙を確認したうえで、ダイアログを読んで、付属のクイズでその理解を確認する。また、各フレーズについている音声を確認し、発音の確認をすることでより実践的な学習ができるようになっている。一方、本教材は、一つのダイアログに一つのコミュニケーション課題(Can-do)を取り上げていることから、課題達成を目標とした教室活動がデザインしやすく、その課題達成も評価しやすいという特徴がある。そこで本章では、上述した基本的な使用以外にも、ダイアログ教材を活用した教室活動案を提示し、本教材の授業での有効活用を提案する。

5.1 活動案1 ダイアログを活用し談話構成に注目させる活動



NHK 「Learn Japanese from the News」番組サイトより

図4 活動案1で使用したダイアログ

活動案1は、2022年6月20日公開のニュースに付属する図4のダイアログを用いた活動案で、表4の流れで行う。このダイアログの目標「自分の子ども時代の学校生活や習い事について、そのときの夢や気持ちといっしょに話す」の達成に加え、ダイアログ中の話題展開の分析を通して、雑談中の話題の展開の仕方を意識させることをねらいとした活動案である。ダイアログ内容の理解を確認するパートの⑤⑥で、談話構成に注目させるところがポイントである。談話構成への注目は、B1レベルのコミュニケーション言語活動に求められる、ある程度のまとまりをもった話ができるようになるために必要である。

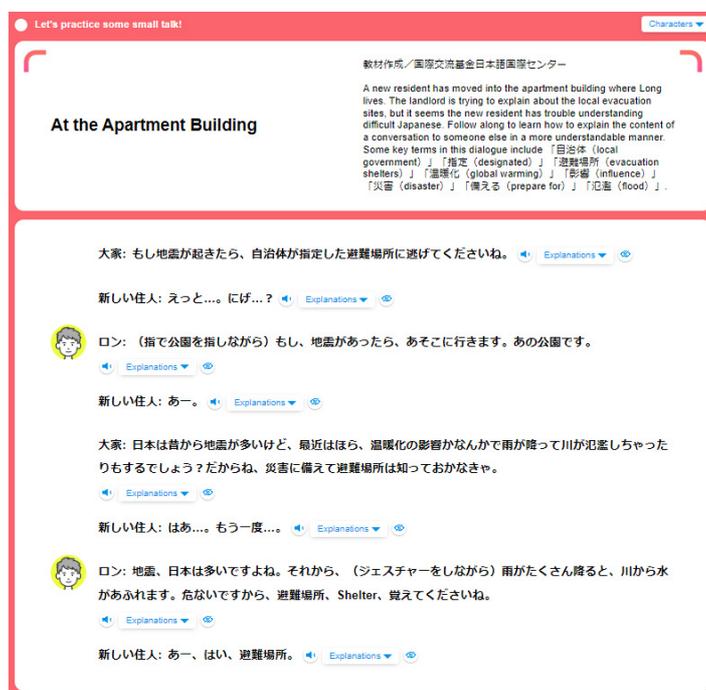
表4 活動案1 授業の流れ

<p>ウォーミングアップ(導入)</p>	<p>①今日のトピック・授業内容の紹介 学校生活で夢中になったもの・ことは何かあるか</p> <p>②日本の部活に関する読み物や動画を見る</p> <p>③日本の部活の仕組み・用語、放課後の過ごし方について確認</p> <p>④Can-doの確認 子供時代の習い事や学校生活などについてその当時の夢などに関連付けながら、友人に話すことができる (JF009_経験や物語を語る_B1)</p>
----------------------	---

<p>ダイアログ 内容の理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①場面を確認した後、内容を理解するために【ダイアログ】(図4)を聞く(複数回) ②内容確認の【クイズ】で確認する ③表現を確認するために【ダイアログ】を聞く ④キーとなる表現の確認、練習 ⑤談話の流れを理解するために【ダイアログ】を聞く ⑥会話のトピックがどのように変化していったか確認(週末の話題→部活の話題)
<p>話す活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①学生時代の習い事、きっかけを思い出し、整理し(個人作業)、ペアで話し合う(母語でOK) ②どんな談話の展開で部活の話題になったか話し合う(全体→ペアで【ダイアログ】ではどのような流れで部活の話題になったか→自分の息子の部活の話から、自分自身の部活の話をして、ソフィアさんにも部活の話題をふる ③ソフィアさんの立場になって、田中さんの「何か部活やってた？」の質問に答えてみる ④ペアで会話を考え、練習・修正(会話例をもとにしても、自分たちではじめから自然な流れを作ってもよい) ⑤発表(グループまたは全体で) ⑥Can-doの達成の確認

5.2 活動案2 コミュニケーションの手助けをする仲介の方法を学ぶ活動

活動案2は、2023年1月30日公開のニュースに付属する図5のダイアログを用いた活動案である。このダイアログの目標「人が話した内容を、別の人にわかりやすく説明しなおす」の達成を目指した活動案である。このダイアログでは、何らかの理由(例えば、言葉が通じないなど)でわかりあえない関係性の間を取り持つ「仲介活動」を取り上げている。具体的には、日本語がまだ十分ではない後輩などに対してコミュニケーションの手助けをするための方法を学ぶ活動案となっており、表5のように行う。また、ダイアログ教材を事前課題とすることで、ダイアログの内容理解は事前課題を通して行い、授業内では仲介活動の理解に焦点を置くところに特徴がある。



NHK 「Learn Japanese from the News」番組サイトより

図5 活動案2で使用したダイアローグ

表5 活動案2 授業の流れ

事前課題	<p>【ダイアローグ】(図5)の場面、語彙を確認したうえで、【ダイアローグ】を読む。以下の内容理解確認の質問に答える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大家さんが一番伝えたいことはなんですか ・災害が起きたら、ロンさんたちはどこへ行きますか
ウォーミングアップ(導入)	<p>①事前課題の確認</p> <p>②今日のトピック・授業内容の紹介</p> <p>ロンさんのように、日本語がまだ十分でない人を手助けした経験があるか、どのように手助けしたか</p> <p>③Can-doの確認</p> <p>人が話した内容を、別の人にわかりやすく説明しなおす (MY Can-do: 元 CEFR_仲介_B1⁽¹²⁾)</p>
仲介活動の理解	<p>①仲介活動を確認するために【ダイアローグ】を聞く (複数回)</p> <p>②わかりやすく説明しなおすためにロンさんがどんな工夫をしているかを聞き、わかった仲介活動について話し合う (ペア)</p> <p>③スクリプトを見て、仲介活動にあたる部分 (ジェスチャー、言い換え、他の外国語を用いる) がどこか話し合う (ペア→全体)</p> <p>④大家さんの言葉をわかりやすく説明しなおす練習をし (ペア)、全体で</p>

	確認する
仲介活動の 実践	①「運転見合わせ」の車内放送（2022年11月21日公開のニュースに付随する【ダイアログ】）を聞いて、場面を確認する（全体） ②車内放送の内容をわかりやすく伝えるために、どんな工夫ができるか考え（個人）、話し合う（ペア） ③車内放送をわかりやすく説明しなおす練習をし、おたがいにフィードバックする（ペア） ④発表（グループまたは全体で） ⑤Can-do の達成の確認

6. おわりに

近年、web 上でアクセス可能な日本語教材が増え、教材選択の幅も広がっている。そうした中で、本ダイアログ教材は、JF スタンダードを活用して作成されていることから、同じ JF スタンダードに基づいた教材（例えば、『まるごと 日本のことばと文化』『いろどり 生活の日本語』など）や今後増えてくるであろう参照枠に基づいた教材などと組み合わせて使用することも可能になる。また、先に述べたように、一つのダイアログに対して、一つのコミュニケーション課題（Can-do）が設定されているため、課題達成を目標とした教室活動デザインに活用しやすく、その達成の評価もしやすいという特徴がある。参照枠の公開に伴い、生活者を対象とした日本語教育においても、Can-do の達成を目標とした課題遂行型の授業デザインが注目されている。今後、Can-do ベースの課題遂行型授業が求められた際に、本教材を活用していただきたい。

謝辞：本論文の執筆にあたり、ご協力いただきました株式会社 NHK エデュケーショナルのご担当者の皆様に厚く感謝申し上げます。

〔注〕

- ⁽¹⁾ JF 日本語教育スタンダード <<https://www.jfstandard.jp/ja/render.do>>（2023年 8 月29日）
- ⁽²⁾ Learn Japanese from the News <<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/tv/ljnews>>（2023年 8 月29日）
- ⁽³⁾ 放送局の規定により、web 上のニュースコンテンツは公開後 1 年で削除されるが、ダイアログ教材については2023年11月末日現在まで web 上での公開が続いている。
- ⁽⁴⁾ 首相官邸成長戦略ポータルサイトより引用。
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/portal/foreign_talent/index.html>（2023年 8 月29日）
- ⁽⁵⁾ 平成30年12月25日外国人材の受入れ・共生に関する関係閣僚会議決定
<<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/gaikokujinzai/index.html>>（2023年 8 月29日）
- ⁽⁶⁾ 「ひきだすにほんご Activate Your Japanese!」は国際交流基金の「ひきだすにほんご Activate Your Japanese!コンテンツライブラリー」 <<https://www.hikidasu.jpf.go.jp/>>（2023年 8 月29日）で視聴可能

である。

- (7) 日本語教育に関わる全ての者が参照できる日本語学習、教授、評価のための枠組み。
<https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/93463101.html> (2023年8月29日)
- (8) 「美咲」は、教材の制作途中で追加したため、web サイト上の登場人物設定には表示されていない。同様の理由で苗字も設定されていないが、ロンの成長を描く上で、重要な人物であるため本稿では説明を加えた。
- (9) みんなの Can-do サイト <<https://www.jfstandard.jp/jp/cando/top/ja/render.do>> (2023年8月29日)
- (10) 著作権法上の都合から実際のニュースを引用することができないため、本稿では概要をまとめるにとどめた。
- (11) みんなの Can-do サイトの種別整番、カテゴリー、レベルの別は「JF013経験や物語を語る A2」である。
- (12) 使用した元 Can-do は、「Can relay (in Language B) the contents of detailed instructions or directions, provided these are clearly articulated (in Language A). (Council of Europe, 2020 : 94)」である。

[参考文献]

- Council of Europe (2020). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment Companion Volume*. <<https://rm.coe.int/16809ea0d4>> (2023年8月29日)
- 菊岡由夏・本田雅美・石山友之 (2022) 「日本語学習番組「ひきだすにほんご Activate Your Japanese!」ができました！」日本語教育通信2022年5月公開
<<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/news/202205.html>> (2023年8月29日)
- 来嶋洋美・柴原智代・八田直美 (2012) 「JF 日本語教育スタンダード準拠コースブックの開発」『国際交流基金日本語教育紀要』8、103-117
- 国際交流基金 (2017) 『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』、国際交流基金
- 藤長かおる・伊藤由希子・湯本かほり・岩本雅子・羽吹幸・磯村一弘 (2022) 「生活場面での課題遂行を目標とした著作権フリー教材『いろいろ 生活の日本語』の開発」『国際交流基金日本語教育紀要』18、33-48

■執筆者

菊岡由夏	国際交流基金日本語国際センター専任講師
山本実佳	国際交流基金日本語国際センター専任講師
須摩亜由子	国際交流基金日本語国際センター専任講師
西島阿弥子	国際交流基金日本語国際センター専任講師
山岸愛美	国際交流基金日本語国際センター専任講師
湯本かほり	国際交流基金日本語国際センター専任講師